

口軍ウクライナ侵攻

拠点にミサイル攻撃

【モスクワ共同】米メディアによるとロシア軍は24日、ウクライナへ侵攻した。ロシアのプーチン大統領は国民向けにテレビ演説し、ウクライナ東部ドンバス地域で軍事作戦を実施することを決定したと述べた。プーチン氏は、ウクライナの非軍事化が目的で、同国の占領は計画していないと述べた。北大西洋条約機構(NATO)のこれ以上の拡大はロシアにとって脅威となり、容認できないと訴えた。首都キエフでは砲撃音に似た大きな音が複数回あった。ロイター通信によると、キエフと東部ハリコフの軍事司令センターがミサイル攻撃を受けた。ロシアメディアは、ロシア軍がウクライナ南部に上陸したと報じた。

ウクライナのクレバ外相は24日、ロシアのプーチン大統領がウクライナに対する全面的な侵攻に乗り出したとツイートした。度重なる警告を無視した

決断で、米欧との対立は決定的になった。バイデン米大統領は23日、声明で「プーチン氏は破滅的な人命の損失をもたらさず戦争を選んだ。米国は同盟・友好国と結束して断固対処する。世界はロシアの責任を追及する」と非難した。米欧はロシア軍の一層の侵攻を食い止めるため対抗策を検討。ロシアはウクライナ南部クリミア半島を強制編入した2014年にも軍を侵攻させていた。クリミア編入以来科してきた経済制裁を一段と強化する。

AP通信によると、ウクライナ議会は23日、全土を対象とした非常事態宣言を承認した。ロシアのベスコフ大統領報道官は23日、独立を承認したドンバスの親ロシア派支配地域のトップ2人が、敵対するウクライナ政府軍の攻撃が続いているとして反撃のための軍事支援をプーチン氏に要請したと明らかにしていた。プーチン氏はNATOが冷戦終結後も東方拡大を続け、ロシア国境に迫ってきたことに反発。隣国ウクライナが将来的にNATOに加盟すれば安全保障上の重大な脅威になると主張していた。



24日、ロシア国営メディアで軍事作戦の実行を決断したと表明したプーチン大統領(ロシア国営メディアのユーチューブから)

最近のウクライナ情勢の経過

- 2014年2月 ▶ 親ロシアのヤヌコビッチ政権崩壊、親欧米政権に
- 3月 ▶ ロシアが南部クリミア半島強制編入
- 4月 ▶ 東部で親口派武装勢力が二つの「人民共和国」樹立宣言
- 5月 ▶ 親口派と政府軍が本格的交戦
- 9月5日 ▶ 政府と親口派が大幅な自治権付与を柱に停戦合意
- 15年 ▶ ウクライナと独仏の4首脳が停戦合意を確認
- 2021年2月12日 ▶ バイデン米大統領がウクライナ国境付近のロシア軍増強巡り、プーチン大統領に懸念表明
- 12月7日 ▶ ロシアが北大西洋条約機構(NATO)不拡大の確約を求め米国の条約案を公表
- 17日 ▶ プリンケン米務長官がNATO不拡大拒否を表明
- 2022年1月26日 ▶ プーチン氏が「人民共和国」の独立承認
- 2月21日 ▶ プーチン氏がウクライナ東部ドンバス地域を守るため軍事作戦の実行を決断したと表明
- 24日 ▶

